

井澤 尚子 (東京家政学院短大)

目的 情報過多の現代社会においてファッション情報に敏感な女子学生が、服装に対してどのようなイメージをもっているのか。1993年より経年的な調査を試みた。被服造形学演習において各自が最も着装したいワンピース・ドレスを創作、着装させ、そのイメージ要因を検討した。

方法 1)被験者 女子学生(年齢18~20歳)66名、2)生地購入時期 1995年4月、完成 1996年1月、3)色彩の視感判定、4)布地の鑑別、5)形態の分類、6)着装評価 形容詞22尺度5段階評定、7)主成分分析 イメージ・プロフィール、相関行列、固有値、因子負荷量、個人値と色彩との対応、イメージ空間に解釈を加えた。

結果 ワンピース・ドレスの生地素材は、デザイン、季節の影響で、天然素材のウールがほとんどであった。色彩は無地で、黒、灰、青紫系が多くみられ、形態では、スカート丈が短めの傾向にある。イメージ・プロフィールは、「落ち着いた、女性的な、上品な、清潔な、好きな」が上位で、「個性的な、独創的な」が下位である。形容詞間の相関は、「明るい、甘い」「上品な、美しい」「やわらかい、軽い」が高くなっている。因子負荷量から、第4因子までの累積寄与率は、55.1%である。因子を意味空間で解釈すると、4つのタイプに分類される。

これらのことから、女子学生の服装嗜好は、無彩色、ダークトーンの色彩に『落ち着き』や『女性らしさ』を感じとり、さらに、個性やファッション性を重視した自己表現であることがわかった。